

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握・分析し、改善を図ることを目的に、本年度は、国語、数学、理科の3教科が実施されました。

以下の結果は、本校の現状を分析してまとめたものです。掲載している結果は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、この結果を基に、学校と家庭が連携しながら、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っていきたいと考えています。

なお、表示につきましては加古川市教育委員会の規定に基づき以下のように表現しています。

本年度3年生 在籍57名 本調査参加者57名（100%）

【加古川市の表示基準】

区 分	表 示
全国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が +6%以上 であるもの	十分満足できる状況
全国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が ±6%未満 であるもの	概ね満足できる状況
全国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が -6%以上 であるもの	改善が必要な状況

1 【学力調査の結果】各教科の正答率

教 科	全国	兵庫県	加古川市	本 校
国語A【知識】	77%	77%	76%	概ね満足できる状況
国語B【活用】	61%	62%	60%	概ね満足できる状況
数学A【知識】	66%	69%	67%	十分満足できる状況
数学B【活用】	47%	48%	46%	概ね満足できる状況
理科【知識】	68%	70%	66%	十分満足できる状況
理科【活用】	65%	65%		概ね満足できる状況

本年度3年生は、すべての教科において全国平均値・兵庫県平均値を上回っており、概ね満足できる状態でした。

特に数学と理科の【知識】を問う設問は、全国・兵庫県平均より6%以上上回っており、十分満足できる状況でした。

〔優れているところ〕

「国語A」

- ・話の理論的な構成や展開などに注意して聞く。
- ・書こうとするまとめや順序を考えて文章を構成する。
- ・伝えたい事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように書く。
- ・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。
- ・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。

「国語B」

- ・全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す。
- ・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。

※学習指導要領の領域に示す「話すこと」「書くこと」「聞くこと」の分野では十分満足できる状況でした。

「数学A」

- ・2つの負の数の和は負の数になることを理解している。
- ・与えられた文字式の意味を具体的な事象の中で読み取ることができる。
- ・指数を含む正の数と負の数の計算ができる。
- ・絶対値の意味を理解している。
- ・数量の大小関係を不等式に表すことができる。
- ・着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目して連立二元一次方程式をつくること
ができる。
- ・空間における平面と直線との位置関係（面と辺が平行であること）を理解している。
- ・半円を、その直径を軸として回転させると球が構成されることを理解している。
- ・四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ であることを理解
している。
- ・与えられた資料から中央値を求めることができる。
- ・多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している。

「数学B」

- ・グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる。
- ・事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することが
できる。

※以上の設問については、十分満足できる状況であり、他の設問も概ね満足できる状況でした。

「理科」

- ・1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる。
- ・太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている。
- ・ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる。
- ・化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる。
- ・反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる。
- ・地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付
けている。

〔課題とされるところ〕

「国語」

- ・文脈に対して正しく漢字を書く。
- ・適切な敬語を選択する、適切な語句を選択する等、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
- ・B問題「話のあらすじを学級の友達にどのように説明するか」との設問に対する無回答。

「数学」

- ・ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表される。
- ・具体的な場面で、関係を表す式を等式の性質を用いて目的に応じて変形する。
(等式 $S=ah$ を a について解く)
- ・不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明する設問に対する無解答。
- ・事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する問題での無解答。
- ・証明を振り返り、証明した事柄を基にして新たな性質を見いだす。

「理科」

- ・シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘する設問に対する無解答。
- ・実験の結果を示した表から電流の値を読み取る設問での無解答。
- ・探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとする。アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだす設問での無解答。
- ・植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する設問での無解答。
- ・オームの法則を使って抵抗の値を求める。

2 【生活状況調査の結果】

【優れているところ】（全国・県の平均より10%以上上回っている項目）

- ・2時間以上家庭学習を行っている。
- ・学校の授業以外で1時間以上読書をしている。
- ・1・2年生までに受けた授業や課外活動で、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする。
- ・今住んでいる地域の行事に参加している。
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- ・自然の中で遊んだことや自然観察をした経験がある。

【課題と思われるところ】（全国・県の平均より10%以上下回っている項目）

- ・家で、自分で計画を立てて勉強に取り組んでいる。
- ・家で、授業の予習・復習をしている。
- ・家で学校の宿題をしている。
- ・毎日同じ時刻に起きる。

3 【今後の取り組み】

「国語」

- ・漢字の読み書きの力を高め、知識として活用する学習活動を行います。また、確認テストを行います。
- ・語彙を増やすために、意味が捉えにくい語句等を国語辞典で調べたり、その語句を使って文章を作ったりして、「読むこと」「書くこと」の関連を図る学習活動を行います。

「数学」

- ・主体的・対話的な授業を展開し、学びを深める活動を通して自信を持たせるようにします。
- ・問題解決への多様なアプローチに触れさせ、難解な課題に対しても、粘り強く思考できるよう、考える時間を十分に確保します。

「理科」

- ・疑問をもち、課題を解決するためにはどのような方法があるのかを「思考」「記述」「発表」する授業を展開します。
- ・見通しを持った観察や実験を通して、科学的に探求する力を身につけさせるため、各自の考えをグループで話し合い、発表する機会を設定します。

4 【まとめ】

今年の3年生は、地域行事に積極的にに関わり、学校生活も落ち着いている様子がうかがえます。また、素直で指示されことは確実に実行しようとする資質を備えており、学習面をはじめいろいろな面で今後の成長が期待できると考えられます。

一方で、指示されたことは真面目に遂行しようとはしますが、主体的に意欲を持って参加したり、新たに企画したりすることに課題が見られます。

学習面においては、家庭における計画的な取り組みや授業の予習・復習が十分に行われておらず、少し難解な問題に対してはすぐにあきらめてしまう傾向がみられます。

今後は、学習面・生活面いずれにおいても、物事の本質を十分理解し、何事にも主体的に粘り強く取り組む意欲を育成する必要があると考えられます。